ポスター発表

2025年11月1日(土) 13:00 ~ 13:50 | 会場(金森産業ホール)
[P1] ポスター発表 #1

[P1-07] 近世日記に見る空間行動の規則性

*菖蒲 幸宏[1]、藤原 直哉[1] (1. 東北大学大学院情報科学研究科)

キーワード：人流データ、EPRモデル、空間行動分析

個人の地理空間における移動行動には高い予測可能性と規則性が存在し、その理解は都市計画のみならず、人間の意思決定や社会構造の解明にも資する。近年では、人の移動を「新規探索」と「既知地点への帰還」に基づくExploration and Preferential Return（EPR）モデルで説明でき、訪問頻度のZipf分布や距離分布の特性を統一的に記述可能であることが示されている。本研究では、このモデルの枠組みが過去の人物の行動履歴にも適用可能かを検討した。具体的には、17世紀の日英において個人が遺した日記資料から訪問地を抽出し、訪問頻度分布や行動の偏在性を分析した。その結果、特定拠点への訪問集中や繰り返し行動といった特徴が確認され、EPRモデルによる統計的性質と部分的に整合した。これにより、現代の移動データで見出された行動則が過去にも存在する可能性が示唆された。

©一般社団法人地理情報システム学会